

③ 房総の巨樹めぐり 房総半島中央部（上総地域）の巨樹

【概要】木更津、君津、富津は、房総半島の中央部に位置し、古寺名刹が多いことから、このような社寺境内には、多くの巨樹・古木が見られるだけでなく、境内林内に貴重な自然植生が見られる

【森林の特徴と見所・歴史文化】～巨樹めぐり

1. 高倉観音（木更津市矢那）



高蔵寺（こうぞうじ）は、千葉県木更津市にある真言宗豊山派の寺院です。本尊は聖観世音菩薩であり、坂東三十三観音霊場第30番札所で、通称は高倉観音（たかくらかんのん）と呼ばれ多くの人に親しまれている。

本堂は木更津市の指定文化財に指定されている、床の高さ2.3mの高床式の構造。この高床式構造を活かして、本尊は聖観世音菩薩（クスノキ1木彫り身長3.6m）の全身が床下から拝観できる構造になっている。

外周はスダジイの極相林の様子が見られるが、一部は伐採されている。山門横には木更津市名木指定のツガの巨木があり、本堂横にはスギの巨木が見られる。

2. 賀恵淵（かえぶち）のシイ（君津市賀恵淵） ・スダジイ 樹高21m 幹周8.5m 樹齢600年

当地は、小櫃川の沖積低地で浅間神社と八坂神社の2社が祭られていて天皇様と呼ばれていた。浅間神社祭りは8月の初めでシイノキの回りを掃除してお茶、お酒等を飲む習慣が伝えられている。



全国的に見て千葉県はシイの巨木数が多く、本樹は全国6位の大きさである。一本の木で森を思わせるような樹形は、相当以前に主幹が折れて横枝が伸びたことと、川からの風が強いために現在の樹形になったものと思われる。

3. 久留里城（君津市久留里）



久留里は房総の中心として古くから栄えた町で、戦国時代の初期、安房から進出してきた里見氏が久留里城主として城をおさめた。町内いたるところに掘り抜き井戸が掘られており、平成20年（2008）に「平成の名水百選」に選ばれた。名

水を原料として酒蔵元も多くあり、この頃から休耕田を利用し、淡水魚のホンモロコの養殖が始まっている。

この森は、久留里城址の周辺から北東に広がる国有林で、この地域の原生林の面影を残す価値のある自然で平成10年（1998）に国の「健康保養の森」（全国35箇所）に選ばれている。

当地の特徴としてコシダ・ウラジロ・リンボクシャシヤンボ、ニセジュズネノキなどの暖温帯系の植物とスノキ・カマツカ・アカシデ・スズタケなどの冷温帯系の植物が同地区に出現していることがあげられる。

4. 三島神社（君津市豊英）



三島神社は千葉県無形民俗文化財の「三島の棒術と羯鼓舞」で知られる神社で、広い境内はスギの巨木と、当地の自然植生が残る貴重な森。三島の棒術は源頼朝が安房の地から北上した際、この地に土着した家来が武道に励み、三島神社のために行った奉納試合が由来とされる祭礼として今に伝えられている。

三島神社境内には、幹周り5m以上、樹高40m、樹齢400年を超す巨木が40本以上も林立し、鎮守の森は「巨樹の森」といえる。スダジイの巨木やアサダなど、南方系と北方系の植物が混在する当地の独特の植物相が見られる。

5. 環（たまき）ノ大樟 （富津市東大和田 興源寺）



・クスノキ 樹高14.5m、幹周12m

興源寺は真言宗智山派の寺で、室町時代初期の応永年間（1394～1428）の開山と伝えられ、興源寺の由来は「源氏を起す」から来ていると言い伝えられる。里見攻めのときに寺が焼かれ、このクスノキも焼けたが、クスノキの中らご本尊が出てきたことから、このクスがご本尊を守ったとの言い伝えがある。今でもクスノキの前には不動様が祀られている。

千葉県指定天然記念物であり、クスとしては県下で2番目の大きさである。